

小学生から大人まで、名古屋港の魅力を探る

～夏休み企画「港から考える日本のエネルギー」を開催します～

■概要

平成 27 年 8 月 21 日(金)、名古屋港でエネルギーと港について学ぶイベント、「港から考える日本のエネルギー」が開催される。

エネルギー資源や食料等の暮らしに必要な多くのものが港から入ってくることを学習するため、「中部エナジー探検隊(代表:大竹由紀子氏)」が主催し、中部地方整備局 名古屋港湾事務所が共催するもの。

このイベントは、小学生から大人までを対象に、エネルギーと港をテーマにした講演とあわせて、清龍丸の船内見学を行うことにより港の役割を考えるもので、事前に参加申し込みをした 60 名を招待して実施する。

■「中部エナジー探検隊」とは

平成 19 年 7 月に女性 14 名で組織された団体で、資源・環境・エネルギー等に関する学習を続けている。平成 27 年 1 月にはウィルあいちにて国立天文台チリ観測所教授である阪本成一氏を招き、「宇宙から見た人のいとなみ・地球のあした」というテーマで講演を行っている。

■行程 8 月 21 日(金)

①エネルギーと港をテーマにした講演

13 時 30 分～15 時 30 分 (名古屋港ポートビル 2 階)

港の先生

板生考司氏 (名古屋港湾事務所企画調整課長)
名古屋港の歴史から現状のすみずみまで知っているベテラン港案内人。



エネルギーの先生

金田武司氏 (ユニバーサルエネルギー研究所 研究所長)
(株)三菱総合研究所先進エネルギー研究チームリーダーを経て平成 16 年 11 月より現職。コメンテーター・解説等、ニュース番組などに出演。



ナビゲーター

水尾衣里氏 (名城大学人間学部教授)
専門は建築学、都市計画。現在名城大学にて環境人間学、都市文明史担当。国土交通省をはじめ愛知県など数多くの行政機関や各種団体の委員などを歴任。



②浚渫兼油回収船「清龍丸」の船内見学

15 時 45 分～17 時 00 分 (港区空見町)



■取材申し込みについて

取材を希望する場合は、別添の「取材申込書」により事前にFAXにてお申し込み下さい。

■配布先 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、
港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス

■問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所

企画調整課 板生(いたお)

TEL 052-651-6763 FAX 052-652-0303



取材申込書

■平成 27 年 8 月 21 日 (金)

夏休み企画「港から考える日本のエネルギー」

<p>会社名及び部署名</p>	<p>会社名: _____ 部署名: _____</p>
<p>取材者 ※全員分の氏名・役職 を記入願います。</p>	<p>代表者氏名: _____ 役職: _____ 同行者氏名: _____ 役職: _____ 同行者氏名: _____ 役職: _____</p>
<p>連絡先 ※代表者の連絡先を 記入願います。</p>	<p>電話番号: _____ FAX番号: _____</p>
<p>取材希望時間 ※取材を希望する時間帯 にレ点の記入願います。</p>	<p><input type="checkbox"/> 講演 (13:30~15:30頃・名古屋港ポートビル2階 C会議室) <input type="checkbox"/> 清龍丸船内見学 (15:45頃~17:00頃・清龍丸船内:港区空見町38)</p>

申込締切り:平成27年8月19日(水)15:00必着

**送付先:国土交通省 中部地方整備局
名古屋港湾事務所**

FAX番号: 052-652-0303



集合位置図

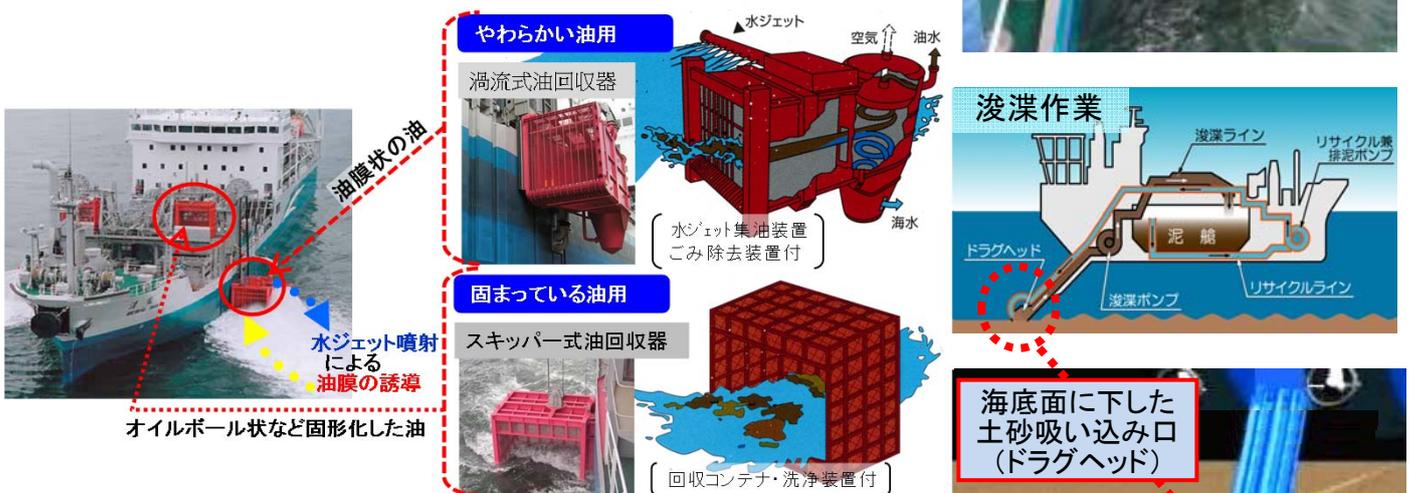
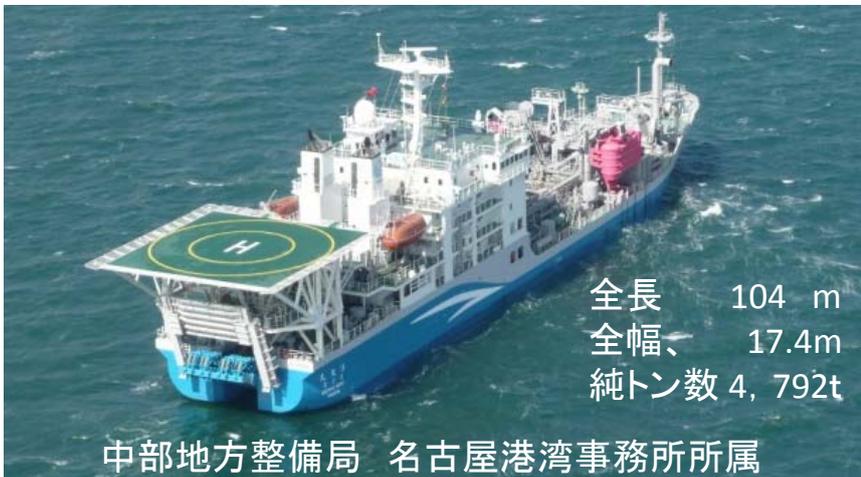
- ・13:30～の講演の取材をご希望の場合は、ポートビルまでお越しください。
- ・15:45～の清龍丸船内見学の取材をご希望の場合はフェリーふ頭までお越しください。



浚渫兼油回収船「清龍丸」の概要

「清龍丸」の行う業務

- 通常は、航路、泊地等の浚渫作業。
 - ・高精度で平坦浚渫を可能とする幅広い新型ドラグヘッドを装備。
- 大量油流出時には、速やかに流出現場に向かい、油回収作業。
 - ・油の状況に応じた2種類の回収器を装備。
- 災害時には、災害支援作業(災害情報収集、救援物資輸送、給水、電力供給等)。
 - ・情報収集・発信のための通信システムや防災要員・物資運搬等のためのヘリデッキを装備。



油回収タンクに約1時間で1,000kl (ドラム缶約5千本分)の油水を回収可能。